ケアマネさんがんばって！

vol.3

医療法人社団裕和会 理事長
長尾クリニック 院長 長尾和宏

日本はケアマネがいるからダイジョーブ

「分化は退化の始まり」だと言われます。在宅療養は2000年に医療保険と介護保険に分化し、ケアマネという職種が誕生しました。在宅は分断されてから20年。介護のカタチは、ますます多様化しつつあります。もはや「在宅＝自宅」ではなく、「在宅＝地域」になってきました。

療養の場の分化も激しく、小規模多機能、看多機*やお泊りデイ、さらにこの4月からは介護医療院と選択肢は広がる一方です。そして利用者さんは、地域の中をどんどん移動します。動くこと自体は良いことなので、ケアマネさんも一緒に動きまわらねばなりません。「在宅」や「介護」という言葉は、どこか静的なイメージがありますが、現実はますます動的な職場となっています。

私の大好きな科学者に福岡伸一氏がいます。彼のベストセラー「動的平衡」を読みながら、いつも在宅患者さんのことを想い浮かべます。あちこち移動しながら、その人らしい生活を維持されている。いや、移動するからこそ、ハッピーでいられる。それを支援するのがケアマネさんです。マラソンのコーチのような存在で不可欠です。

ケアマネの事務仕事量が年々増えることは悲しいことですが、要領良くこなして自分自身も移動を楽しむことができれば、これほど楽しい仕事はないでしょう。ケアマネさんという職種の特典を最大限享受している人を見るたびにそう思います。バンバン移動して、病院や施設や自宅にガンガン入っていけるわけですから。

さて、韓国や中国は、高齢者医療においても日本の動向を注視しています。その証拠に私の本も10冊くらい、ハングル語や中国語に翻訳され読まれています。日本の高齢者医療で起きることは、必ず韓国や中国でも起きる。これは彼らが一番知っている事実です。だからこそ、彼らは日本の〝いいとこ取り〟を目指します。当然でしょう。日本が超高齢社会の最先端を走っているわけですから、良くも悪くも日本は彼らの注目の的なのです。

韓国は、介護保険制度の立ち上げに際し、ケアマネ制度を採用しなかった。この事実を知ったのは数年前のことでした。一瞬、なるほど、と思いました。しかし、少し時間が経ってから「本当にそれでいけるんかいな」という疑問が湧きあがってきました。それは年々、現代人の嗜好が細分化し多様化しているからです。せっかく公的制度を創設しても、それを市民の幸せに直結させるためには、やはり専門職が必要だと考えるからです。

分化の反対語は、未分化です。介護やケアマネという造語が必要なかった時代のことです。しかし、価値観や療養形態がこれだけ多様化した現代社会において「未分化への逆行」は到底考えられません。要は「分化」は良しとして、それを「退化」としないための工夫が必要です。具体的には、ケアマネ業務のイメチェンです。まずは、マイナーチェンジで充分です。

では、ケアマネは介護側でしょうか？

私はそう思いません。私のクリニックには何人かのケアマネさんがいますが、医療と介護の連携をする職種と捉えています。当院には、ホームヘルプやデイサービスなどの介護保険事業はありません。純粋に「医療介護連携士」と考え、ケアマネさんを雇用しています。だから遠慮せずに、どんどん現場に移動して、といつも檄を飛ばしています。移動しないケアマネは要らなくなる。ケアマネは机の上の仕事ではなく、現場にいること。これが不勉強な私の口癖ですが、もし間違っていたら教えてください。

韓国にも、いつかケアマネのような職種が必要になるはずです。それは自然なこと、ないし必然なのでしょう。その時に、日本のケアマネ制度やケアマネさんが良いお手本になってほしいと強く願います。

果たして、分化の波を進化に変換できるのか。これからの10年間、それが問われます。まさに正念場。そのためにも、しつこいくらいに現場に足を運んでほしい。外国から見て「日本はケアマネがいるからダイジョーブ」と言われる国でありたいものです。

●ながお・かずひろ
1958年 香川県生まれ。1984年東京医科大学卒業後、大阪大学第二内科入局。1995年 兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。最新の医療機器と複数の医師による年中無休の外来診療と24時間体制の在宅医療に従事。医学博士。日本尊厳死協会副理事長、日本慢性期医療協会理事、日本ホスピス在宅ケア研究会理事、エンドオブライフ・ケア協会理事、関西国際大学客員教授。日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本内科学会認定医、日本在宅医学会専門医、日本禁煙学会専門医。著書は『薬のやめどき』『痛くない死に方』（ブックマン社）、『「平穏死」という親孝行』（アース・スターエンターテイメント）など多数。

＊看多機
看護小規模多機能型居宅介護。24時間365日、通いを中心に「宿泊」「訪問介護」「訪問看護」のサービスを一体的に提供するサービス。平成27年度の介護報酬改定において、「複合型サービス」から現在の名称に変更された。

平成30年1月31日　第57号（季刊誌）日本介護支援協会ニュース　ISSN 1345-6466

日本介護支援協会ニュース

Association of Supporting Care Service Management

2018 WINTER Vol. 57

地域包括ケアシステムの本格的な構築に向けて

CONTENTS

2 ……巻頭言
2025年 地域包括ケア構築に向けた再点検を
会長 鴻江圭子

3 ……社会福祉法人の未来に向けて
まずは自己評価を
淑徳大学 准教授 山下興一郎

4 ……日本介護支援協会 平成29年度 勉強会
びわこ学院大学 教育福祉学部 教授 鳥野猛
日本介護支援協会 副会長 中山辰巳

8 ……ケアマネさん がんばって！
日本はケアマネがいるからダイジョーブ
医療法人社団裕和会 長尾クリニック 院長 長尾和宏

10 ……わが街 ザ・地域包括ケア
住民主体でつくる〝ケアのまちづくり〟
地域包括ケア「幸手モデル」
在宅医療連携拠点事業推進室「菜のはな」室長 中野智紀

15 ……地域公益活動インタビュー
地域のニーズをとらえた清明会の取組み
社会福祉法人 清明会

20 ……81歳 現役ドクターがすすめる 攻めの養生
〝今日〟をきちんと生きる
医療法人直心会 帯津三敬病院 理事長・名誉院長 帯津良一

22 ……日本介護支援協会 施設状況調査 ≪結果まとめ≫